

浜松市議会政務活動研究会会議録

1 開催日時

令和7年3月21日（金）午前11時00分開議

2 開催場所

市議会第2委員会室

3 会議に付した案件

- 1 海外視察に伴う報告について（自由民主党浜松・市民クラブ・創造浜松）

4 出席状況

○出席委員（11人）

議長（座長）	鳥井徳孝	副議長	加茂俊武
委員	久米丈二	委員	齋藤和志
委員	平野岳子	委員	北野谷富子
委員	黒田豊	委員	森田賢児
委員	酒井豊実	委員	鈴木恵
委員	馬塚彩矢香		

○欠席委員（0人）

○議会事務局職員の職氏名

議会事務局長	村上広幸	議会事務局次長 (議会総務課長)	清野訓子
議事課長	青葉陽亮	調査法制課長	徳田純一
議会総務課長補佐	藤村顕栄	議会総務課副主幹 (議会総務グループ長)	三田村琴湖
議会総務課主任 (担当書記)	本門加代子		

会 議

11:00

○**鳥井徳孝議長(座長)** ただいまから、第5回政務活動研究会を開会します。
市政記者の傍聴についてお諮りいたします。許可することによろしいでしょうか。
〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**鳥井徳孝議長(座長)** それでは、市政記者の傍聴については、許可することといたします。
一般傍聴人の傍聴についてお諮りをいたします。申し出があれば許可することによろしいでしょうか。
〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**鳥井徳孝議長(座長)** それでは、申し出があれば許可することといたします。
これより協議事項に入りますが、海外視察に伴う事後報告については、インターネット中継をしますので、ご承知おきください。

1 海外視察に伴う報告について（自由民主党浜松・市民クラブ・創造浜松）

◎**結論** 自由民主党浜松・市民クラブ・創造浜松より海外視察についての報告がありました。

◎**発言内容**

○**鳥井徳孝議長(座長)** それでは、1の「海外視察に伴う報告について」、参加された会派より説明してください。はじめに、自由民主党浜松からお願いします。

○**松本康夫議員** インド視察について、会派を代表して報告します。

昨年12月22日（日曜日）から12月28日（土曜日）まで1週間の行程で行ってまいりました。12月23日の午前中、グジャラート州にてスズキ・モーター・グジャラート社を訪問し、午後は国際金融技術都市であるギフトシティを訪問しました。12月24日の午前中、アーメダバード市役所とグジャラート州政府を訪問し、午後はアーメダバード経営者協会を訪問しました。12月25日はデリーにて全日本空輸株式会社デリー支店を訪問しました。12月26日の午前中、ハイデラバードにてインド工科大学ハイデラバード校を訪問し、MOU締結式に参加しました。午後はアップパールスタジアムを視察しました。

視察訪問先の一つであるスズキ・モーター・グジャラート社について報告します。

滞在先のアーメダバード市からバスに乗り約2時間半の道中、広大なインドの風景を見せつけてくれました。スズキ株式会社が40年前にインドに進出した当時、インドは自動車市場がほとんど存在しない状況でしたが、スズキ株式会社はインドの経済成長と人口増加の可能性に賭け、低価格で小型車を提供する戦略を採用しました。現地のニーズに合わせた徹底したローカライズ戦略を実施し、インド市場での成功を収めました。

そうした歴史背景の中で、スズキ・モーター・グジャラート工場を視察しました。広大

な敷地の中にある工場は、プレス工程、溶接工程など一連の生産ラインはロボットによる自動化となっており、日本の工場と同じでした。ただ、完成車の最終検査のラインでは、多くの従業員が配置しており、品質管理の徹底が見られました。また、日本式ものづくりを導入しており、社員教育においてルールやマナーの徹底により、日本と同等の品質管理を実施しています。工場にも工夫が施され、一直線に生産ラインを配置し、効率性の高いものとなっており、部品納入のプラットホームも荷下ろしの段差が生まれない構造としていました。単なる生産拠点の拡大にとどまらず、品質管理や環境保護にも重点を置いており、最新のエコ技術を駆使し、環境負荷を低減する取組が行われていました。

スズキ株式会社のインドにおける自動車のシェアは2024年の5月時点で41.7%です。グローバル化の拠点や電動化の推進による工場新設に向け、さらなる投資を加速していくこととなります。そうしたことから、スズキ株式会社はインド人材の本社採用に力を入れ、現在は40名程度のインド人が本社に勤務しています。また、来年度には15名程度の採用を予定しています。製造業が多い本市の課題である人手不足などの解消のため、インドからの高度人材やワーカーの獲得は必要であると感じました。多くのインド人材が浜松で活躍できる体制を整え、パートナーシップの締結に向けた環境整備を模索していきたいと感じました。

他の視察訪問先については、報告書にて報告とさせていただきます。

○鳥井徳孝議長(座長) ありがとうございます。質疑・意見はすべての会派の報告が終わってからとすることによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○鳥井徳孝議長(座長) 続きまして、市民クラブからお願いします。

○岩田邦泰議員 行程については、先ほど松本議員が説明しましたので割愛します。

12月26日に訪問したインド工科大学ハイデラバード校の報告をします。

調印式後に行われた記者会見では、市長から今後の具体的な施策として、静大にI I T Hの学生を招聘して連携を既に始めたことや、片岡先生に高校生向けの講義を依頼したこと、スズキイノベーションセンターを通じ若者同士の交流を行うことなどの紹介がありました。また、MOUへの期待が問われた際には、学長からスズキ株式会社との強いリレーションシップで40人就職したことや他の企業でも働けるような新技術開発で両国に利益が出るようにするため、共同研究にも期待するという回答がありました。アメリカでなく日本を重視する戦略のメリットについての質問には、「インドと日本の文化・伝統には通じるものがあり、ヒューマニティもよい」、「35年の経歴で感じたことは、アメリカでは文化的な学びがない」、「学長が日本にいた2年間で日本のことを愛してしまった」、「日本には規律正しさ・謙遜さなどお金よりも大事なものがありそれが強みだと思う」という非常に嬉しい回答でした。本市もその期待に応えるよう、お金だけではない魅力を高める方策を考えていくべきと思いました。

その後行われたMOU締結式後の記者会見では、MOUがもたらす日本企業へのメリッ

トが問われ、ジンダル社長から「どのようにスタートアップと連携できるかが鍵であり、まずインドスタートアップフェアを浜松で行いたいと考えている。また、浜松の農家にインドの農家を見てもらい助言を受けたい」と回答がありました。また、市長から今後ハイデラバード市との交流について都市間連携も検討していく旨の話がありました。実践的な取組が重要であり、今後の推移に注目したいと思いました。

広い大学構内の施設をバスに乗って見学し、敷地内に自動運転を行うテストコースがある大変すばらしい大学だと感じました。

○鳥井徳孝議長(座長) ありがとうございます。続きまして、創造浜松からお願いします。

○森田賢児委員 創造浜松からは、森田と関議員の2名で参加しました。

全日本空輸株式会社の視察について報告します。

現下、日本の人手不足の状況下で、どのように人材を確保するかという議論が先行しがちですが、今回、改めて「行く側」であるインド人の考えや望むことについて確認することができました。

インド人が日本で働く理由として、家族への仕送りや日本で知識や技術を培った後に母国での起業を目指すなど様々ありますが、結局のところは、インド国内の仕事が不足していることが理由です。また、家族を大事にする国民性から単身赴任は難儀とされます。インド人の行き先としてアメリカやカナダが多い中、日本が選ばれるか不安がありました。日本への希望は根強いという話を聞くことができました。日本には文化があり、その文化はインド文化にも通じる部分が多くあるということでした。また、日本人の規律の良さや謙遜さ、てきぱきした仕事ぶりは賃金以上の魅力を覚えるということも伺いました。この点は、私たち日本人も再認識するべきものと感じました。

また、技能実習制度及び特定技能制度を通じて人的交流の進展を目指すことや、インド人の送り出し機関が現状不足していること、インドの中でも北東インドは顔つきや食文化、感性も日本人に近いことを伺いました。

現在、外国人労働者の受入れに関して様々な議論があり、世界各国の競争が激しくなる中で5年後10年後、日本が求めたとしても人材が来る土壌がそのときあるかどうかも見通しが立たないのが実情です。しかし、文化をはじめとする魅力を高め、経済面だけに依存することなく多方面で日本のファンを作っていくことにより、選ばれ続ける国になることが重要だと感じました。本市にはものづくりの地の利があるので、それを十分に生かしていかないといけないと感じました。

○鳥井徳孝議長(座長) ありがとうございます。それでは、質疑・意見があればお願いします。

○黒田豊委員 創造浜松の報告で、単身赴任は難儀という話がありました。現在、スズキには40人のインド人が来ているということでしたが、その40人もやはり家族連れなのでしょうか。

○**岩田邦泰議員** 今は若い方が単身で寮に入っているのが現状です。ただ、今後は家族を帯同して日本に来ることを前提としていくということです。

○**黒田豊委員** ありがとうございます。今後は家族連れで来ることを前提に考えないといけないのかと思います。

また、ヒンドゥー教の方が増えることになりましたが、宗教の違いやヒンドゥー教徒の習慣で配慮しないといけないことなど、気づいたことがあれば教えてください。

○**松本康夫議員** 今回の視察では、現地の人たちと触れ合うことがなかったため、人間的な部分や文化振興についてはこれからの課題です。

○**岩田邦泰議員** 一般的な話として、インド人はヒンドゥー教徒であるというイメージが強いですが、ヒンドゥー教、仏教、イスラム教の方もおり、実は多宗教です。そういう部分ではやおよぼの神を信仰している日本人と割と価値感が近く、親和性があるのではないかと思います。

○**黒田豊委員** ありがとうございます。これからインドの方が増え、習慣の違いがあることを考えると、そういうところも気遣いが必要ではないかと思います。市民の皆様にも紹介しながら、インドの方が安心して暮らせる浜松にしないといけないと思います。

○**酒井豊実委員** 今回はスズキの工場を訪問していましたが、浜松市に立地している他の企業のインド人材について、現状どのような水準にあるのか教えてください。

○**松本康夫議員** 例えば株式会社ソミック石川も企業進出しています。今回の視察で訪れたマンダラ工業団地には、ASTI株式会社や株式会社村上開明堂、株式会社ROKIなどの県内企業が入っていました。工業団地が足りないことも懸念の1つに挙がっていました。

○**酒井豊実委員** ありがとうございます。他社に来ているインド人の情報はありますか。

○**岩田邦泰議員** 今回の視察の中ではあまり情報が得られませんでした。先般情報センターで開催されたセミナーでは、多くの企業が来ていたので、やはり今後はインド人材を増やしていくと思います。

○**鳥井徳孝議長(座長)** 以上で海外視察に伴う報告を終わります。

なお、会議録は議会ホームページで公開します。また、海外視察報告書についても議会ホームページで公開するとともに、議会事務局の受付カウンターにも配架し、希望者が閲覧できるようにしますので、よろしくお願ひします。

11:31